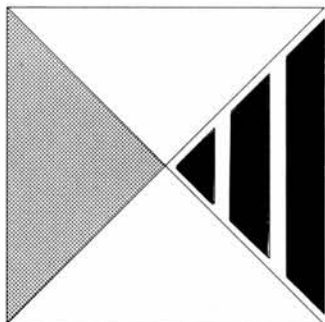
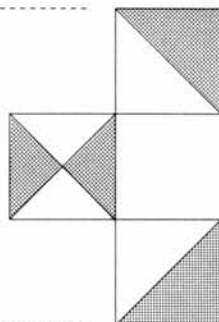




第1回 BELCA賞 表彰式



第1回BELCA賞の表彰式を当協会の総会に引き続き、平成4年5月21日都ホテルで実施いたしました。

ロングライフ・ビルディング部門及びベストリフォーム・ビルディング部門各5点が受賞されました。



た。

ここに、吉野会長、岸谷審査委員会副委員長、三井所審査委員会主査、守屋審査委員会主査の挨拶及び受賞された物件の概要を紹介します。



吉野会長挨拶

表彰式の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙のところ受賞関係者並びに、審査委員の方々には、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

さて、平成三年度BELCA賞は、第1回にもかかわらず、全国から優秀な物件を多数ご応募いただきました。審査にあたりましては、審査委員の方々が大変ご苦心されたとお話を伺っており、芦原委員長をはじめ、委員の方々には、厚く御礼申し上げます。



これより表彰されます建築物が、今後も、我が国の良質な社会ストックの形成の範となるものと確信しております。



岸谷副委員長挨拶

建築物の維持保全を企業活動の一環として良質な社会資本となる建築ストックの確保に積極的に取り組んでいる建築物の関係者を表彰する制度であるBELCA賞は、わが国における良好な建築物のストックの形成に寄与することを目的として創設され、今回がその第一回の表彰であります。

この制度は、二つの部門によって構成され、一つが建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建築され、かつ、修繕も含む適切な維持保全を実施している竣工後二十年以上経過している建築物のうち、その物件及び、内部環境として特に優秀なものを表彰するロングライフ・ビルディング部門と、改修されて一年以上経過した建築物で、その長期的付加価値の増進を図って実施された物件のうち、物件及び内部環境として特に優秀なものを表彰するベストリフォーム・ビルディング部門であります。

建築物は、竣工後において長期間継続的に使用されるものであり、常に最適な住環境と刻々に変化する社会、そして時代のニーズに対応した良好なストックとして存在することが大切であり、経年変化による老朽化の対策安全性等の機能的保持だけを想定した維持保全のみ行っていたのでは、社会的にも陳腐化した建築物となってしまいます。社会資本として資産である建築物を良好な状態に保つための維持保全を広範囲及び多方面から検討し、これを推進することが、「フローからストックへ」といった社会背景において重要な命題なのではないでしょうか。

今回の公募により応募されました物件は、両部門共に、北海道から九州より広く分布しており、竣工、改修年度、そして、その建築物の用途も官公



庁舎、教会、ホテル、そして事務所と多岐にわたっております。

各専門部会において、良質な社会ストックを形成するには、どのような点に着目して評価、そして審査を行うのかといった評価項目について慎重に討議を行い、その結果、作成された評価項目に基づいて書類選考による第一次審査を経て、現地調査つまり第二次審査を実施しました。

今回応募されましたロングライフ・ビルディング部門においては、良好な維持保全が実施されており、ベスト・リフォーム・ビルディング部門においては、創意工夫が凝らされた物件が全般的に確認することができました。

そのような優秀な物件が多いなかでの審査は、困難を極めました。最終的には、部会評価基準に基づいた総合評価にて、これから表彰を行います各部門5物件、合計10物件を平成3年度BELCA賞として選出いたしました。しかしながら、今回、残念ながら入選から外れました物件もけっして入選物件に劣らない優秀な物件が多く、これらを支えますわが国の創造性豊かな設計思想、高度な施工技術、そしてそれに係わる管理者の志気の高さには改めて敬服をいたしました。



「ロングライフ・ビルディング」部門

三井所主査挨拶

今回が初めてのBELCA賞であり、そのロングライフ・ビルディング部門にどのような物件が応募されるのか大変興味をもちました。今年度の応募物件は、現在の潜在的な対象建築物の多さに比べると少ないと思われたが、実際、その建築物名に接してみると我が国の建築史において足跡を残す、いわゆる著名建物がほとんどであり、審査委員として、また、建築家としても大変興味を抱く物件でした。

書類選考の後に、審査委員全員が第二次審査として現地調査に行きました。本部門の選考範囲の性格から建築及び設備の点検、修繕、更新等の実施状況。今後の維持保全の考え方、計画が重要と考え事前に建築及び設備の概要、実施記録等に関する調査と現地調査により評価を実施しました。

これらの評価にあたっての具体的な事項は、次のとおりです。

1. 評価項目

- ①良好な建築ストックとして、デザイン及び構造上の価値があるかを評価する。
- ②建物の維持管理の状況（体制と対策）が良好かどうかを評価する。

③建物の維持管理に対して設計上の配慮がなされているか。また、それがロングライフに役立っているかを評価する。

④地域に根づいた施設になっているかを評価する。

2. 具体的な評価項目

- ①良い建築であること。
- ②基本的に建てられた状況で現在も使われているか。
- ③今後、長期にわたって維持保全をしながら建物を存在させるつもりがあるのか。
- ④テナントや居住者が当該建物に満足していること。
- ⑤建物の管理体制の面で建物の保全に対する努力が大いに認められていること。
- ⑥建物及び設備・構造上に重大な欠陥が認められないこと。
- ⑦地震・火災に対して安全な対策が講じられていること。
- ⑧地域の人々に親しまれていること。
- ⑨地域の人々の誇りになっていること。



「ベストリフォーム・ビルディング」部門

守屋主査挨拶

今回が初めてのBELCA賞募集であり、そのBRB部門にどのようなものが応募されてくるのか興味もたれましたが、果し多彩な内容の物件が応募されました。すなわち、応募総数は27件でしたが、改修前の建物は江戸時代に建てられた古いものから、昭和50年代に建てられたごく新しいものにおよび、それらを修復して現在でもそのまま使えるようにしたもの、改装によって付加価値の増

進を図ったものなど、リフォームの目的もさまざまでした。所在地も、北海道から宮崎まで、広範囲に分布していました。

審査は、まず第一次審査として全応募物件に対して専門部会委員全員による書類審査を行い、12件の候補物件を選出しました。次に第二次審査として候補物件すべてをそれぞれ3人以上の委員が応募関係者立会いのもとに詳細な現地調査を行い

ました。

BRB専門部会は、次のような評価基準によって審査に当たりました。

1. 良好な建築物のストックの形成に寄与するものであるために、次のいずれかの項目に合致していなければならない。
 - ①古い建物を十分にいかしていること。
 - ②改修の結果、現在に相応しい機能を持った建物となっていること。
 - ③改修の結果、デザインの的に優れたものになっていること。

④改修の結果、機能的に著しく不調和な点のないこと。

⑤改修の結果、周囲環境に調和していること。

2. 次のいずれかの項目に優れた工夫が見られるか、これらに準じる成果が見られなければならない。

①新旧部分のデザインの調和。

②改築とせず、改修したことの積極的意味。

③維持管理のしやすさ。

④施工法。

第1回BELCA賞審査委員会の構成及び委員

委員長	芦原義信(東京大学名誉教授)
副委員長	岸谷孝一(日本大学理工学部建築学科教授)
特別委員	梅野捷一郎(建設省住宅局建築指導課課長)
	谷口哲彦(BELCA専務理事)
L L B	三井所清典(芝浦工業大学建築学科教授)
専門部会	高橋公子(日本女子大学家政学部住居学科教授)
委員	村尾成文(㈱日本設計代表取締役副社長)
	小倉善明(㈱日建設計常務取締役)
	犬塚恵三(㈱建築設備設計研究所代表取締役所長)
	仲田潔(㈱P.A.C技術士事務所代表取締役所長)
	福田守宏(清水建設㈱専務取締役東京支店支店長)
	佐久間俊次(大成建設㈱常務取締役建築本部本部長)
	成田好将(三機工業㈱取締役設計本部長)
	渡邊武揚(㈱関電工取締役営業本部副本部長)
	猪股亀三郎(東山興業㈱代表取締役社長)
	宮恭(日本メックス㈱代表取締役社長)
B R B	守屋秀夫(千葉大学工学部建築学科教授)
専門部会	中原信生(名古屋大学工学部建築学科教授)
委員	村松映一(㈱竹中工務店総本店取締役設計本部長)
	降幡廣信(㈱降幡建築設計事務所代表取締役所長)
	石福昭(早稲田大学理工学部建築学科教授)
	牧英二(㈱日建設計専務取締役)
	安富重文(鹿島建設㈱取締役設計・エンジニアリング総事業本部副本部長)
	松井家弘(㈱大林組取締役建築生産本部副本部長)
	野口哲(新菱冷熱工業㈱代表取締役副社長)
	岡野節壽(日本電設工業㈱取締役東京支店副支店長)
	須藤祥夫(三菱地所㈱取締役第一建築部長)
	石垣肇(㈱京王プラザホテル嘱託)